БОЛОВСРОЛ, СОЁЛ, ШИНЖЛЭХ УХААН, СПОРТЫН ЯАМ

ХӨДӨЛМӨР, НИЙГМИЙН ХАМГААЛЛЫН ЯАМ

モンゴル国障害児のための教育改善プロジェクト

2017年2月　　第2号

すべてのこどもたちがニーズに合った発達支援・教育サービスを受けられるように…



目次：

プロジェクトの紹介	1
プロジェクト対象地域	1
プロジェクト事務所	1
障害の早期発見・理解向上のための映像制作	2
新版ポーテージ早期教育プログラムによるパイロット活動	2
学習障害（LD）児が学びやすくなるための工夫	2
少しでも多くの障害のある子どもたちが教育にアクセスできるように	3
教育省・保障省としての取り組み	3
絵画コンクール	4

プロジェクト事務所

○教育・文化・科学・スポーツ省（教育省）：
政府庁舎 3号館　212号室
電話：976-9424-0702

○労働・社会保障省（社会保障省）：
リハビリテーション・研修・職業センター　209号室
電話：976-8634-0702

○メール：jica15start@gmail.com

○プロジェクトウェブサイト：
http://www.jica.go.jp/project/mongolia/013/index.html

プロジェクトの紹介

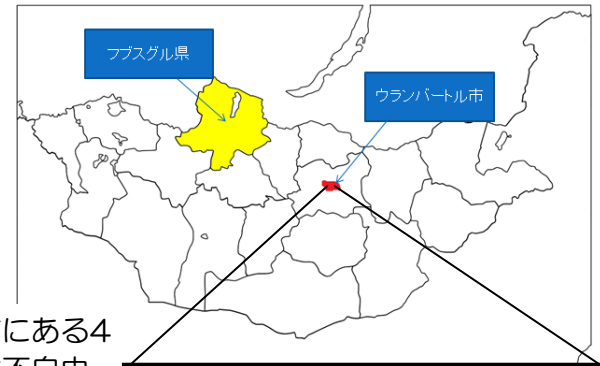
2015年8月、モンゴル教育文化科学省（現：教育・文化・科学・スポーツ省、以下、教育省）と人口開発社会保障省（現：労働・社会保障省、以下、社会保障省）の要請に基づき、JICAは「障害児のための教育改善プロジェクト」を開始しました。

このプロジェクトは、2019年7月までの予定で、「障害の早期発見、子どもたちに対する発達支援や教育のモデルを構築すること」を目標に活動をしています。

プロジェクト対象地域

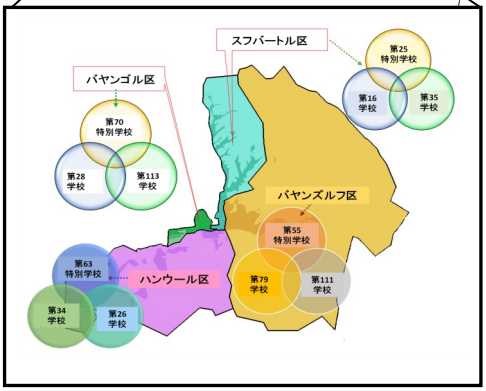
パイロット地域として、ウランバートル市からはバヤンゴル区を、地方からはフブスグル県を選定しました。

パイロット地域にて、「障害児の保健・教育・社会保障委員会」(注)等を対象に、障害の早期発見や発達支援に関する研修会等を実施しています。



ウランバートル市にある4つの知的障害・肢体不自由特別学校とそれらの周辺にある通常学校をパイロット校としました。

パイロット校では、勉強会や研究授業等の取り組みを通して、障害のある子どもに質の高い教育が提供できるよう、教員の能力向上を図っています。



（注） 医師、教育関係者、社会福祉関係者、リハビリテーションの専門家などで構成され、発達の遅れや障害を確認し、医療、教育、福祉の面から発達支援計画を提案することを主な役割とする委員会。ウランバートル市の各区、各県に設置されている。0～16歳を対象とし、保護者と相談の上、就学先を決定する役割などがある。

障害の早期発見・理解向上のための映像制作

障害の早期発見・理解向上のため、3本の映像教材を制作しました。

1本目は、『自閉症スペクトラム障害の早期発見と理解』についての映像教材です（協力：モンゴル自閉症協会）。2本目は、『ダウン症の早期発見と理解』についての映像教材です（協力：モンゴルダウン症協会）。これらの映像教材は、それぞれの障害を持つ子どもへの適切な対応の促進、早期発見・発達支援体制構築の一助とすることを目的に制作されました。支援に携わる専門家を対象に、各々の定義や診断基準、行動や発達の特性、合併症などについて解説しています。

3本目は、『乳幼児の発達』についての映像教材です。専門家のみならず養育者を対象に、4歳までの発達に関する理解・知識の向上を目的としています。6領域（①姿勢・運動、②聴覚・視覚、③探索・操作、④記憶、⑤言語、⑥社会性）ごとに、月齢・年齢順に発達特性について解説しています。



3本の映像教材は関係者に配布した他、より多くの方々に活用いただくべく上映会を開催しました。

新版ポーテージ早期教育プログラムによるパイロット活動

モンゴル版ポーテージ早期教育プログラムの開発に取り組んでいます。「ポーテージ早期教育プログラム」は、発達に遅れや偏りのある子どもを対象に、家庭において発達支援が行えるようアメリカのプログラムを基に認定NPO法人日本ポーテージ協会が開発したものです。応用行動分析の原理を用い、一人ひとりの子どもの発達に応じた支援ができることが特徴です。

2016年9月からパイロット相談会活動を開始しました。現在、9家族を対象にプログラムを実施しています。

学習障害（LD）児が学びやすくなるための工夫

文部科学省は、学習障害（Learning Disabilities: LD）を「基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を指すもの」と定義しています。学習障害の原因は、中枢神経系に何らかの機能障害があることと推定されていますが、視覚障害、聴覚障害、知的障害、情緒障害などや環境的な要因が直接の原因となるものではありません。学習障害の背景には「認知のアンバランスさ」があると考えられています。認知とは、

・注意を向ける力
・見たこと・言われたことを覚える力（記憶）
・形や位置を判断する力（視覚認知）
・音を聞き分ける力（聴覚認知）

などがあり、すべて学習の土台となるものです。これらがバランスよく育っていれば、効果的に学習することができます。しかし高い視覚認知能力を持っていても、記憶が苦手であれば教員の言ったことを覚えていられないために 学習につまずくことになります。これが学習障害です。

学習障害のある子どもは、授業の中で「認知のアンバランスさ」に起因する様々な課題を抱えています。 例えば、以下のようなものが挙げられます。

・教員の話に注意を向けることが不得意（注意）
・教員の言ったことを一時的に記憶しノートに書くことが不得意（視覚的短期記憶）
・単語など文字のかたまりを読みながら一字一字の形を見分けることが不得意 （視空間認知）
・黒板に書かれた文字を目に留めて書き写すことが不得意（視覚的短期記憶）

このような課題を抱えている子どもには、次のような手立てが有効な場合があります。

・大切な箇所に色ペンでマークしたり、線を引いたりする
・教科書を拡大コピーして文章を見やすくする
・一行ずつ定規をあてたり、指でたどったりしながら読む
・黒板を写すのが難しい子どもには、教師が黒板に書く内容を前もって紙に書いておき、渡す

学校生活の中で個々の状況に応じたちょっとした配慮を行うことで、学習障害のある子どもたちが学びやすくなります。

たくさんの子どもが、きれいなかざりのついたぼうしをかぶり、大きな声で歌いながら、町の中心に向かって足なみをそろえて歩いていきました。

少しでも多くの障害のある子どもたちが教育にアクセスできるように

プロジェクトでは、子どもたちの特別な教育ニーズに合った様々な教育形態の効果を検証し、全国に普及し得るモデルを開発することを目的に、小規模なパイロット活動（ミニ・プロジェクト）を実施しています。

2016年4月に募集を開始し、モンゴル全国から35件の応募がありました。書類と面接選考の結果、3件が採択され、2016年6月に各プロジェクトが開始しました。

モンゴルダウン症協会による「知的障害のある子どもたちのインクルーシブ教育プロジェクト」では、第130学校と協力してダウン症の子どもたちのための学級を同校内に設置しました。子どもたちが通常学級の子どもとともに体育や音楽の授受けられる体制を整えたほか、第130学校の教員及び保護者向けの研修も行っています。

オルホン県生涯学習センターによる「私たちは学べる」プロジェクトは、学校に通えていない障害のある子どもたちに、ノンフォーマル教育を行っています。センターでの指導の他、重度の障害を持つ子どもには訪問教育も実施しています。

子ども発達情報ウチラル（UCHRAL）センターによる「障害児のための児童預かりサービス強化プロジェクト」では、政府の認可を受けて家庭で預かり保育を行っている人々に障害のある子どもたちに対する接し方や指導法を身につけてもらうための研修モジュールを開発し、そのモジュールを使った研修を実施しています。

これら3件のミニ・プロジェクトは2017年5月までの予定で実施されています。プロジェクトでは、各団体と連絡をとりながらミニ・プロジェクトの進捗状況などを確認し、必要に応じて助言を行っています。終了時にはミニ・プロジェクトの評価を行い、モンゴルの他団体も取り入れられるような手法やツールを導き出したいと考えています。

2017年3月には、2017年6月から開始する新たなミニ・プロジェクトを募集する予定です。



オルホン県生涯学習センターで学ぶ子どもたち

教育省・社会保障省としての取り組み

教育省 B.バヤルサイハン事務次官

すべての障害児には、それぞれのニーズに合った発達支援、教育サービスを受ける権利があります。近年、教育省では、障害児のインクルーシブ教育プログラムを実施し、学習環境や設備の整備、教材の改善等に取り組んできました。

しかし、障害児の評価制度や、質の高い教育を提供するための教員の力量等に課題があります。こうした課題を解決するために、社会保障省やJICAプロジェクトと協力して障害児に対する診断・発達の支援・教育のモデルを構築する予定です。本プロジェクトの成果は、国の制度、政策、教員養成や現職教員の研修プログラムにも反映されることを期待しています。



社会保障省 S. トンガラッグタミル局長

政府は、障害のある子どもたちの能力と可能性を理解し、障害の早期発見・診断、特別なニーズに対する支援を改善し、自立や社会参加を積極的に促すよう取り組んでいます。

2016年2月に制定された「障害者の権利の保護に関する法律」には、障害児の教育、社会福祉支援、健康に関する権利が明記されています。また、現在「障害者権利の確保と彼らの社会参加及び発達支援国家プログラム」を作成中であり、障害児者の、教育、保健、リハビリテーション及び社会保障のサービスの質とアクセスを改善するという目標を設定しています。



こうした目標を達成するために、社会保障省、教育省、JICAは「障害児のための教育改善プロジェクト」を実施中です。障害児のための協力の輪がますます広がるよう尽力いたします。

ウランバートル市 特別なニーズのある子どもたちのための絵画コンクール



特別賞：E.Davaasan さん（9歳）の作品

コンクールの概要・目的

12月3日は、国連が定めた国際障害者デーです。障害のある子どもたちが社会の中で自分らしく成長し心豊かに生活することをお手伝いしたい、子どもたちが素晴らしい才能を発揮する機会を作りたい、そんな思いから、教育省、社会保障省、プロジェクトは、ウランバートル市において**「特別なニーズのある子どもたちのための絵画コンクール」**を開催しました。

テーマは、**「わたし/ぼくの世界」**とし、子どもたちの世界を自由に表現してもらいました。

143作品がウランバートル市の各区に設置されている障害児の保健・教育・社会保障委員会や特別学校での一次審査を通過しました。教育省、社会保障省、美術の専門家、プロジェクトメンバーによる厳正なる審査の結果、12点の優秀作品が選ばれました。



表彰式参列者との記念撮影

表彰式

2016年11月26日、教育省にて表彰式を開催、受賞者、受賞者の家族、支部委員会、特別学校教員等、約50名が参列しました。受賞者には、社会保障省人口開発局局長、教育省中等教育課長、在モンゴル日本大使館書記官、JICAモンゴル事務所職員、プロジェクト総括から楯や賞状、賞品が贈られました。

式では、第116特別学校（視覚障害対象）5年生の児童が、素晴らしい歌声も披露してくれました。

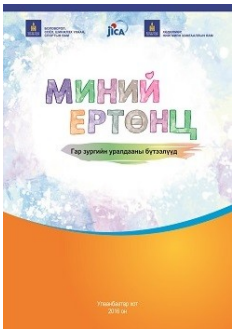


展覧会の様子

展覧会・作品集

同年11月29日～12月13日、教育省、社会保障省、シャングリラモールにて作品を展示しました。シャングリラモールでの展覧会には、市民の方々が多数訪れました。会場の感想ノートには、「障害のある子どもたちが表現した世界をみて、心が洗われました」や「子どもたちの絵はどこか懐かしく、自分の子どもの頃を思い出しました」等の感想が書かれていました。

また、一次審査を通過した応募作品を載せた作品集も制作しました。応募者、特別学校、各県・各区の支部委員会、中央図書館等に配布しました。



作品集



E.Enkhkhaliunさん（15歳）の作品

最優秀作品賞受賞者へインタビュー

この絵は、「障害のある人もない人も同じように、自分らしく生活できる社会になってほしい」という思いを込めて描きました。

絵の右側の車イスの人は、窓から外を眺めています。左側の外にいる人と同じ様に、自分も外で四季の変化を感じたいと思っています。

絵の中の本が分厚いのは、1ページ1ページにそうした思いを描きたいと思ったからです。

この作品をたくさんの人に見てもらいたいです。